

# 小さな炎も感知、初期消火に威力 (火災センサー・アンテック)

「当社の火災検知センサーは、炎が上がった瞬間を感知できる。煙や熱を検知する大半の火災報知器に比べ、初期消火に有効」とアピールするのは、ベンチャー企業アンテック（瀬戸内市邑久町豆田、社員五人）の末石建二社長（44）。直径六・八センチ、高さ二・五センチのコンパクトな丸形で、「世界最高水準、最小サイズ」がうたい文句だ。

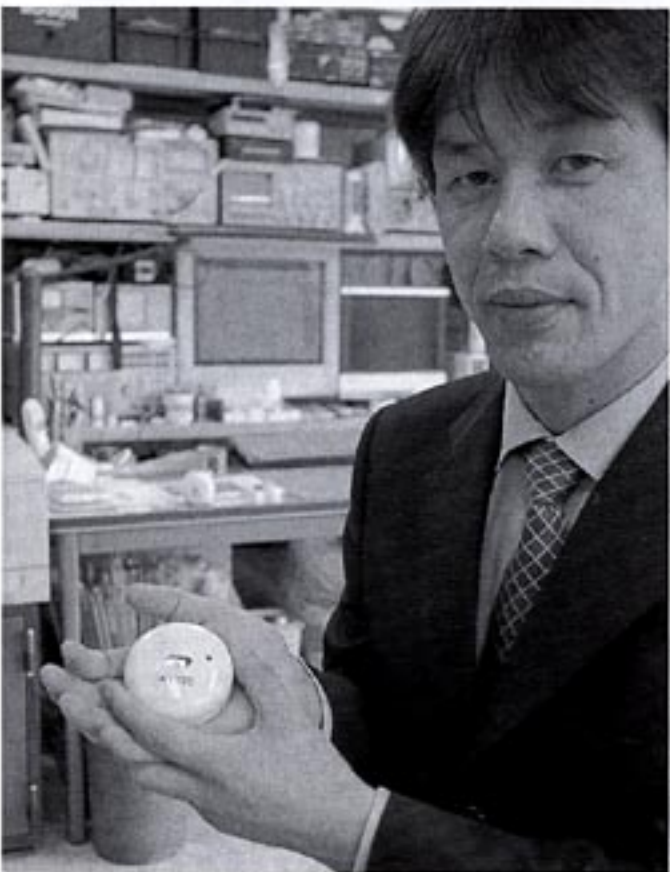
同社のセンサーは炎に含まれる紫外線を直接検出することで、感知までの時間を極端に短縮できる。電気窯の温度制御装置など、十数種類の陶芸用電子機器を手掛けてきたが、「爆発的に売れる商品ができた」と自信をのぞかせる。

末石社長は近畿大学第二工学部を卒業後、岡山市内の福祉機器メーカーで開発に携わった。しかし、「一技術者として自分が作りたいものを製品化しためた。中原三法堂によれば、顧客の反応は悪くないといい、仏壇に標準装備することも検討中という。

アンテックは、独立行政法人の物質・材料研究機構（茨城県つくば市）と組んで新たな紫外線センサーの共同開発にも着手、同機構の小出康夫主席研究員が開発したダイヤモンド半導体を使った新しい紫外線検出素子を利用することにより、現在のUV管式素子に比べて安価で省電力、小型化を図る。同社のセンサーは単体で三万五千五百円と、煙や熱を検知する他メー

い」と一九九一年に創業し、七年法人化した。

脱サラ間もないころ、友人の備前焼作家の窯たきを手伝ったのがヒントとなり、登り窯内部の温度をセンサーで測定、設定温度になるよう薪を入れるタイミングを音声で知らせる支援装置を開発した。窯の炎に含まれる紫外線と、太陽光の紫外線とを区別できる技術を確立しての



成果。これを火災検知センサーに応用、五ヶ先のライターの炎も検知できる。

国際的な防塵防水規格（IP64）も取得、そのまま屋外に設置できる。情報通信企業と共同で、不審火を検知すると同時に、登録している携帯電話へ画像や電子メールを送る自動送信システムも実用化している。

七月には、センサーに張り付けて感度を調節する特殊フィルムを開発、ろうそくやライターの炎には反応しないが、火事につながる十五センチ程度の炎はブザー音で知らせることができるようにした。

この画期的な技術を使い、提携した中原三法堂（倉敷市羽島）がセンサー付き仏壇の販売を始

わずかな炎もキャッチする小型火災検知センサー

カー品に比べ割高だが、半値程度に抑えることも可能という。

消防法改正で来年六月から新築住宅への火災報知器の設置が義務付けられ、市場が一気に拡大する可能性も出てきた。

末石社長は「紫外線センサーは誤報が多いと信頼性が問われている。当社の技術の確かさをアピールし、圧倒的なシェアをつかみたい。（紫外線センサーが）生き残れるかどうか懸かっている」と言い、住宅メーカーや建築系の商社、工務店を通じて年間数万台の販売を見込む。

平成17年10月20日

岡山財界